

△ 學者の誇 △

ノーベル賞とは何

川口秀史

世界の距離が縮まった

日本

漸く世界の檜舞臺に乗り出して参りました。殊に先頃は獨逸フリードリヒスハーフエンから、我霞ヶ浦にツエベリンが飛來するやら、次で東京に於て萬國學術工業會議が開催されるやらで、非常に國際的になつて來ました。此の上は、どうかし

て我國を人類の日本であると云ふ風にして行きたいものと思ひます。従つて是からの新日本を建設する上に最も大切なものは、先づ偉

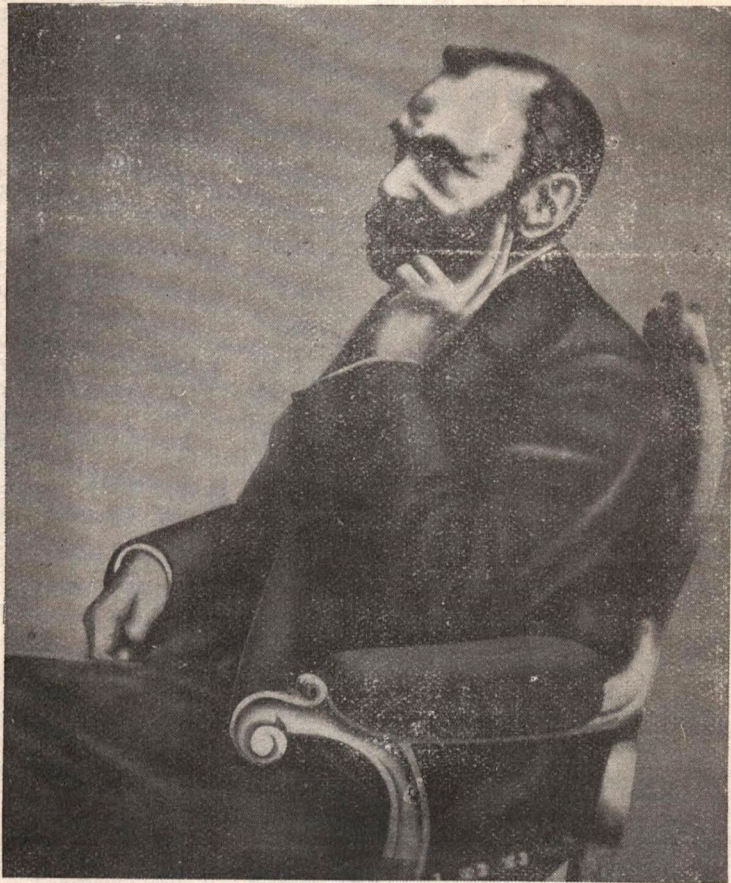
けて皆仲良く平和の間に歩んで行かなくてはならないと思ひます。先年英京ロンドンで軍縮會議が開かれて我國からも若槻全權や財部海相などが列席したのも、つまり、

各國が虎視眈々軍備の競争をしない様にして世界の平和を維持して行かうとの申合せの爲でありました。

ノーベル賞の種類

この様にして發明と云ひ

發見と云ひ、又世界の平和と云ひ、其學術と云ひ、こゝろ方面での世界的大業績を爲した特に名譽傑出した人は、世界中のいづれの國の人を問はず、黒人でも、土人でも印度人でも誰でも、皆均等にノーベル賞と



アルフレッド・ノーベル

云ふものを受ける事が出来るのであります。此ノノーベル賞は、理想主義の文學、物理學、化學、醫學、平和の五賞でありまして、人類の福祉を増進した人々に、それぞれ約八萬圓が贈られるのです。

例へば、エツキス光線を発見したレントゲン、ラヂウムを発見しましたキュリー夫人、相対性原理で有名なアインシュタイン博士、乳酸菌の不老長壽の學說で有名なメチニコフ生理學者で且つ癌の研究で知られたエーリツヒ、細菌學者のコツホ博士、糖尿病の新藥インスリンの發明者として知られてゐるバンチングやマクレオド、文學では、彼の詩聖タゴールを初めロマンローラン、オイケン、メーテルリンク、アナトールフランス、平和賞では、日露戦争の媾和に努力して知られたルーズベルトや、世界大戦の平和に貢献したウイソンの様な有名な人々は、皆此ノーベル賞を受けてゐます。

昭和四年度では、週期的現象、殊に其法則の發見で知られた、イギリスのオーウエン・ウイリアム・リチアードソン教授や、電子の波狀性に關する發見をした巴里のルイヴィクトル・ド・ブログリー教授が物理賞を得て居

ます。文學賞では「小さきフリーデマン君」「王の權力」其他幾多の著作で有名な、獨逸の詩人トーマスマン博士が、之を受けてゐます。一九三〇年即ち昭和五年度の科學賞をうけた人は、ラマン教授、ランドスタイナー博士、フィッシャー教授の三氏であります。

誰がこうゆう受賞者を詮衡するかと申しますと、物理、化學は、ストツクホルムのスエーデン科學學士院で、醫學は同じストツクホルムのカロリン研究所で、文學賞は、スエーデン學士院で、平和賞は五名の詮衡委員合議制で、定めるのであります。

ノーベル賞の歴史

一體、どうして斯う云ふノーベル賞と云ふものが生れただらうかと申しま

すと、其生ひ立ちは、爆發藥の發明特許を百廿九も得たと云はれるスエーデンのアルフレツド・ベルナルド・ノーベルと云ふ人が、一八

九六年に、愈々死ななければならぬと云ふ臨終に際して、自分は子供の時に笈を負ひて故郷ストツクホルムを出でて、露都のペテルスブルグ(現今のレニングラード)に行き父に従つて盛んに水雷艇や水雷を作つた。それか

ら、大西洋を渡つて亞米利加に至り、其處で化學を研究して、一八六三年に、ニトログリセリンと火藥との合製藥を發明し、次で五年後に「ダイナマイト」を發明して非常な金持となる事が出来たが、嗣つて考へて見ると、自分の發明のために多くの人畜を損傷した。故にそれらの靈を慰めるために、且は世界的に人類の平和の爲に、又學術の爲に貢献した人々の勞にむくゆるため、此金を與へて貰いたいと云つて其遺産の約壹千八百萬圓を寄附しました。是が即ち今日のノーベル賞の基金となつて居るのであります。

我が國に於ても、科學、醫學等に於て世界にその名前を知られた立派な學者が澤山居ります。そしてその効績は優にノーベル賞に匹敵するものもありませんが遺憾ながら此の國際的な名譽を受けた人はないのです。東洋に於て、此の名譽を擔つた者は前に云つたインドのタゴールだけです。

しかし私は「子供の科學」の愛讀者である今日の少年少女諸君の中から、必ずや、やがて此の輝ける名譽を揚げる人々が近い將來に於いて幾人も出るであらうことを確信して居ります。